



風の子

糸魚川市立木浦小学校

学校だより No.14

令和元年12月24日発行

風の子たちの2学期



1・2年

2学期も毎日、1・2年教室からは楽しそうな笑い声が大きく響いていました。登校すると、まず野菜を観察し、校長室に「おはようございます」と挨拶。帰りもしっかりと挨拶していき、たくさん笑顔を届けてくれました。挨拶運動ではじり引を使って、全校のみんなを楽しませながら呼び掛けていました。

出来事がある度に、絵と文でシートを書きつづっています。1年生は作文に少しずつ漢字が増え、2年生はいろいろな見方で自分の思いを表現できるようになってきました。

学習発表会で木浦川をテーマにして木浦地区の魅力について発表した3・4年生。いよいよ木浦川を命の川とするサケについての学習や飼育観察が本格化してきました。

サケの採卵・授精を体験してから、毎日欠かさず受精卵の観察を続けています。子ども自身の手で雌のサケの腹を割いて卵を取り出し、授精したということは、まさに命の終わり始まりに手を下したということにほかなりません。大切な命に関わるという神聖で真剣な活動が子どもたちの心を成長させています。



3・4年

5・6年



5・6年生の総合学習の軸は「キャリア教育」。これまでの学びや目標に向かって生きる人との出会いを通して、自分の将来や生き方について考えを深めています。2学期は、私たちの身近なところで仕事されている美容師や看護師から直接、お話をうかがう機会がありました。また、マリンドリーム能生で「風の子米」を売る体験(左写真)をした際にも、飲食店経営者から全面的に協力していただきました。地元で活躍する人との出会いから、仕事に対する熱意や、地域を大切に思い発展を願う心を学びました。

糸魚川産材を使用した木製品をいただきました

農林中央金庫富山支店様の森林・林業分野における北陸4県での地域貢献活動の一環として、緑の少年団として市内で活動している3校(木浦小、下早川小、青海小)に、糸魚川産材を使用した木製品を寄贈していただきました。12月17日に、ぬながわ森林組合組合長、農林中央金庫富山支店部長、市教育委員会教育長ほか来賓の皆様を迎えて、その贈呈式が行われました。

当校は、木製ベンチ2台とボードスタンド1台をいただきました。式の後、子どもたちはベンチに座って写真を撮ってもらったり、木のぬくもりを感じ取ったりしていました。仲良く大切に使って、心温まる触れ合いの場にしたいと思います。



教育長とベンチに



寄贈された木製品を前に記念撮影

2学期は8月27日から12月24日まで、授業日は81日でした。まだ暑い時期から秋を経て、今は冬。この変化の大きかった4か月間には、市の親善陸上大会やマラソン記録会、文化祭や市の音楽発表会などの大きな行事がありました。また、教科の学習や地域に関わる体験学習にもじっくりと取り組み、成果を上げることができました。

一方で、壁にぶつかったり、子ども同士のトラブルに遭ったりしたこともありました。2学期当初、子どもたちに求めたことは「強い心」でした。マラソン記録会でも「負けとられん」と気持ちを鼓舞し、後半には、他校に出向いて多人数の授業を経験させるなど、試練を課したこともありました。

木浦だからできたこと、木浦でなければできなかったことなど、振り返ると各学年や一人ひとりが違う2学期だったと思います。これらを経て、子どもたちは一回り成長することができたのではないのでしょうか。



保護者・地域の皆様、支援者の皆様

令和元年は、年度開始早々に改元があり、新たな時代の中で子どもたちは健やかに成長することができました。これはひとえに皆様からいただいた御支援・御協力のたまものと、心から感謝いたします。

令和2年もこれまで同様、木浦小学校に御支援くださいますようお願いいたしますとともに、皆様におかれましても幸せな年となりますよう御祈念申し上げます。